

鳴門教育大学附属幼稚園

学校関係者評価報告書

(平成 28 年度)

平成 29 年 3 月

学校関係者評価委員会

## 目 次

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について .....	1
I 学校関係者評価結果 .....	3
II 評価項目ごとの評価 .....	5
1 教育課程・指導 .....	5
2 保健安全管理 .....	5
3 組織運営 .....	6
4 研究と研修 .....	6
5 教育環境整備 .....	7
6 教育実習 .....	8
参考 .....	9

# 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

## はじめに

本報告書は学校評議員，大学教員，附属学校部会の組織体として連関する公立幼稚園園長，保護者等の学校関係者で構成された鳴門教育大学附属幼稚園学校関係者評価委員会が附属幼稚園の教育・研究活動の観察及び園長をはじめとする教職員との意見交換等を通じて同園の自己評価結果について概評することを基本に学校関係者評価を実施し，その結果を取りまとめたものである。

## 1 学校評価の目的

学校評価は，次の3つを目的として実施するものである。

- ① 学校が自らの教育活動その他の学校運営について，目指すべき目標を設定し，その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより，学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 学校が自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により，適切に説明責任を果たすとともに，保護者，地域住民等から理解と参画を得て，学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 学校の設置者等が，学校評価の結果に応じて，学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより，一定水準の教育の質を保証し，その向上を図ること。

## 2 学校評価に係る実施スケジュール

平成28年6月 第1回学校関係者評価委員会（委員長の選出，平成28年度自己評価に係る目標及び評価項目について，学校評価に係る実施スケジュール等）。

平成28年6月 学校関係者評価委員による施設見学，保育・園行事等の参観及び教職員～29年3月 との意見交換（ペアレンツセミナー，運動会，園外保育，幼児教育研究会，表現会等）

平成29年3月 第2回学校関係者評価委員会（自己評価の結果及び改善方策等に関する説明を受けての学校関係者評価の実施と評価報告書の作成等）。

### 3 学校関係者評価委員会委員（平成 29 年 3 月現在）

笠井佳代子：鳴門市精華幼稚園長，徳島県幼稚園こども園研究協議会会長

木内 宏：附属幼稚園みどり会会長，(株)関西テレビ放送報道局徳島支局

木下 光二：鳴門教育大学大学院教員養成特別コース教授

坂田 大輔：徳島大学大学院総合科学研究部特定研究部門教職教育系 教授

○湯地 宏樹：鳴門教育大学大学院幼年発達支援コース教授

（50 音順，○は委員長）

### 4 本評価報告書の内容

#### (1) 「Ⅰ 学校関係者評価結果」

「Ⅰ 学校関係者評価結果」では，「Ⅱ 評価項目ごとの評価」において，評価項目 1 から 6 のすべての評価項目の内容を総合的に判断し，4 段階評価で記述した。

##### 【4 段階評価の基準】

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが，成果が十分でない
- D 取組が不十分である

また，学校の目的に照らして，「主な優れた点」，「主な改善を要する点」を抽出し，上記結果と併記した。

#### (2) 「Ⅱ 評価項目ごとの評価」

「Ⅱ 評価項目ごとの評価」では，評価項目 1 から 6 において，当該評価項目が達成されているかどうかの「評価結果」（4 段階評価）及びその「評価結果の根拠・理由」を記述した。

#### (3) 「参考」

「参考」では，自己評価書に掲載されている「Ⅰ 学校の現況及び目的」を転載した。

### 5 本評価報告書の公表

本報告書は，鳴門教育大学に提供するとともに，設置者に提出する。またウェブページ (<http://www.kinsch.naruto-u.ac.jp>) への掲載を通じて，広く社会に公表する。

## I 学校関係者評価結果

鳴門教育大学附属幼稚園の学校関係者評価は内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断した。

主な優れた点について、以下に列挙する。

- 「1 教育課程・指導」において、幼稚園教育要領に基づく指導内容・方法を明確にし、教育課程・指導計画である「生活プラン」を作成され、カリキュラム・マネジメントのもとに、幼児期から児童期への学校教育の接続という観点から発達や学びの連続性が捉えられている。特に、小学校1年生の生活科をはじめとした各教科との関連性が考慮されていることが、以下のような評価要素のカテゴリー設定に現れている。これらは、平成30年に改訂予定の幼稚園教育要領において明示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目と密接なつながりをもっていることから、極めて先駆的な取り組みであると判断される。  
「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと ②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量）③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ）」、「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」。
- 「2 保健安全管理」において、保健管理については、指導計画に基づいて保健指導を実施し、職員会において毎月の指導計画を見直したり、全職員で園の保健指導体制やその内容について協議したりするなど、幼児や園の実態に応じて改定している。幼児の健康や安全に関する情報を毎月提供する「ほけんだより」も親しみやすさ、読みやすさを工夫し、特に、流行性の疾病については、その予防や対処方法などを丁寧に紹介している。危機管理対策については、「平成28年度安全管理計画－危機管理マニュアル－」に基づき、毎日、毎月の安全点検や防災・避難訓練を実施することにより事故の防止に努めるとともに、教職員・保護者への周知に努め、幼児に対して安全な避難の仕方を身に付けさせたり、生命や身体を守ることの大切さを知らせることができるようになりしている点は優れていると判断される。
- 「4 研究と研修」において、研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命をもっていることから、県内外より研究や実践指導の依頼が多数あり、幼稚園教育や教育の先端的な情報を県内外に広める役割を十分果たしている点、各教員が県内外の多数の研修行事等に精力的に参画し、積極的に保育者としての資質向上に努めている点、地域住民に対しても地域の子育て支援や幼児教育振興に寄与する役割を果たしている点など極めて優れていると判断される。研究課題「豊かな遊誘財を創り出すために共に創り出す」という視点から、協働・同僚性について考える一を設定し、園内研究会や大学教員との合同研究会の実施に取り組み、研究紀要第49集に成果をまとめるとともに、幼児教育研究会では、公開保育・研究発表・キャリアステージ別分科会・対談等のプログラムによって研究成果を公表し、多くの参加者（504名）を得ている。

- 「6 教育実習」において、ふれあい実習、観察実習、ボランティアでの保育参加などで実際に園や子どもの様子を見ることでスムーズな教育実習のスタートができており、「附属学校園実習実地教育計画表」に基づき配属された年限での指導が深まるよう配慮され、領域研究の中に各学級での教材研究の実践が図れるようにされている点、カリキュラム・マネジメント力を促す実習の工夫がなされている点など優れた取り組みであると判断される。

主な改善を要する点について、以下に列挙する。

- 「2 保健安全管理」については、「平成 28 年度自己評価書」に改善点として挙げているように、地震・津波・火災など様々な場面を想定した避難の仕方など訓練が形骸化しないよう常に危機感をもって実施に臨む必要があること、特に、管理職や養護教諭が不在時の対応について検討すること、幼稚園の避難場所は小学校に想定されていることから非常用の備品や備蓄品などの保管場所を検討すること、非常食の賞味期限が平成 29 年 8 月に迫っていることなどを来年度の課題としたい。
- 「3 組織運営」において、園務分掌を詳細に示し、共通理解や協力体制を深めながら幼稚園運営を円滑に行っているが、多岐にわたる業務を少人数で分担しているため、個々への負担は大きくなっている。したがって、職員の負担軽減のための方略を工夫したり、組織構成を見直したりする必要がある。また、研究幼稚園としての使命があることから、教育・研究活動を一層充実・発展させるために、専任教頭制、教員定数の増員を設置者側に要請する。
- 「4 研究と研修」において、本年度も幼児教育研究会への県内外から多くの参加者（504 名）があった。「平成 28 年度幼児教育研究会アンケート」では「本日の研修や参観の内容について」の項目において 96.3 パーセントがとてもよいと評価しているものの、毎年度大勢の参加者が見込まれるので、雨天時を想定した開催会場の検討や別室でのライブ中継の工夫などが必要である。
- 「5 教育環境整備」においては、現在の園舎は昭和 44 年に建築されたもので、接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび割れ、配管などの老朽化が目立つことから園舎改修が必要であるが、予算の関係上、未だ実現していない。特に、幼稚園西側フェンスは外部から容易に侵入されてしまう危険性がある。幼児の安全管理のため、早急の改善を設置者側に強く要請する。

## II 評価項目ごとの評価

### 評価項目1 教育課程・指導

【評価結果】以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

#### 観点1-1 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達について、特に幼児期から児童期への学校教育の接続という観点からの発達に即した指導が適切に行われていると判断される。これについては、平成28年度附属幼稚園オープンスクール（来園者178名・アンケート回答者98名）では保護者及び関係者の98%、幼児教育研究会（来園者504名・アンケート回答者161名）では幼児教育関係者の96%、研修会などで参観した教育関係者（園長50名、教諭15名、その他1名、合計66名）の97%が幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導ができていると評価していることから、客観的な観点からも優れた取り組みであると判断される。

#### 観点1-2 科学的思考を促す幼小接続の生活プラン（教育課程・指導計画）の実施と改善に関する取り組み状況

「生活プラン」（教育課程・指導計画）において、5歳児Ⅱ期から1年生7月までを接続期と設定し、接続期後期となる幼小接続教育課程を作成し、教育実践計画と指導方法の工夫を進め学びと育ちの連続性の確保が実現している点は優れた取り組みであると判断される。特に、「科学的思考を促す幼小接続教育課程の評価要素表—鳴門教育大学附属幼稚園方式—」は、幼児期後期の発達を見とる視点が明瞭になり、幼小の指導方法と評価視点を共有できる先駆的な取り組みである。

### 評価項目2 保健安全管理

【評価結果】以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

#### 観点2-1 保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況

保健室の指導計画を毎月見直し、幼児の実態に応じた健康診断についての工夫や、時期に合わせた疾病の予防などについての計画が立てられ、それに沿って保健管理や保健指導が実施されている。食育についても、無添加で自然の味が五感を通して楽しめるようなものをおやつ時間に提供するように努めている。食物アレルギーへの対応やそれに関する園内研修も実施している。講話や毎月の「ほけんだより」などを通して、保護者への保健指導に関する協力を求めている。環境衛生については、学校薬剤師による指導や定期的な検査、定期的な砂場や遊具などの消毒やインフルエンザ等の感染症の予防対策に努めてい

ることなどから、優れた取り組みであると判断される。

### **観点2-2 危機管理対策の見直しと強化**

「平成28年度安全管理計画―危機管理マニュアル―」を昨年度の反省から見直した上で作成し、それに基づき安全点検の実施や年間数度にわたる避難訓練等の実施されていること、それに加えて避難方法が一目でわかる一枚もののマニュアルも作成されていること、教職員が救急法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得る実技講習を実施するなど、安全管理の強化が十分に図られていることなどから優れた取り組みであると判断される。

### **評価項目3 組織運営**

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「B 達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

### **観点3 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況**

少ない人数組織の中で責任の所在や業務内容を明確にするために園務分掌がかなり詳細にわたって明記されている点、それに伴って責任担当者を複数体制で組織し、共通理解や協力体制を深めながら園運営が円滑に推進できるように工夫されている点は優れた取り組みであると判断される。また、年度当初に示した全体計画に沿って、担当者が計画立案した資料を職員会議にて協議・決定し、後日全員で再確認するための打合せを行い、確実に実施されるように配慮されている点や、教職員が少人数であるために全員で取りかかるべき場合と、そうではない場合を明確にして、運営の効率化が十分に図られている点も工夫に満ちた優れた取り組みであると判断される。

### **評価項目4 研究と研修**

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

### **観点4-1 幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況**

今年度は、保育の質向上のための「遊誘財」研究の視点による「協働・同僚性」について研究に取り組み、園内研究会・合同研究会を定期的実施し、11月に行われた幼児教育研究会では県内外から504名が参加するなど、我が国の幼児教育における先導的役割を十分に果たしている。今年度は教職大学院の辻本教諭がスーパーバイザーとなって、記録やカンファレンスの進め方の提案によりカリキュラム・マネージメントを強化・発展させた点も特筆すべき点である。研修については、各教員が園務に支障のない限りできるだけ県内外の多数の研修行事等に積極的に参加し、研究発表や話題提供なども行っている点など優れた取り組みであると判断される。

(評価結果の根拠・理由)

#### **観点4-2 幼児教育関係者への研修支援等の状況**

園長が、平成 28 年度「徳島県幼児教育アクションプランⅡ推進連絡協議会」委員、平成 28 年度徳島県保育・幼児教育アドバイザー、平成 28 年度徳島県幼稚園等新規採用教諭研修運営協議会委員、平成 28 年度徳島県家庭教育推進リーダー育成事業「家庭教育学習プログラム集」作成検討委員、公益社団法人全国幼児教育研究協会徳島支部の支部長を務めるなど、徳島県の幼児教育・家庭教育の振興に大きく貢献している。さらに、合同研究会の開催、徳島県教育委員会主催の研修会への講師派遣、県新規採用研修・新任園長研修会における指導、平成 28 年度幼稚園新規採用教諭研修、教育技術協議会等の県教育委員会主催の研修会への講師派遣、教員の県内外研修会への講演講師の派遣、国立教育研究所プロジェクト研究「幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する調査研究」協力、他県からの研修受け入れ並びに実地指導など、全国規模の研究大会開催や県内外での講演や実践指導を精力的に行っており、研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命として、幼稚園教育や教育の先端的な情報を県内外に広める役割を十分に果たしていると判断される。

(評価結果の根拠・理由)

#### **観点4-3 地域住民への貢献**

10 月には地域住民を対象としたオープンスクールが実施され、170 人の参加者を得ている。9 月には元職員新田陸子先生を講師に「子どもの世界と大人の世界」と題した教育講演会を開催し、約 160 名の参加者を得ている。このように地域住民に対して、幼稚園教育についての専門的見識や実践事例、先端的な情報を広める地域の子育て支援や幼児教育振興に寄与する役割を十分に果たしており、優れた取り組みであると判断される。

### **評価項目5 教育環境整備**

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4 段階評価中の「B 達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

#### **観点5 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況**

環境を通して行うことが基本の幼稚園教育では、施設・設備・遊具・用具等の整備を常に意識し、幼児が生活しやすいよりよい教育環境作りが徹底されている。また、点検のシステムが確立されていることで、職員の安全に対する意識が高められ、潜在事故の危険性や修理・修繕を必要とする箇所が確実に発見され、附属学校係や大学施設課による迅速な対応がなされている。平成 28 年度附属幼稚園オープンスクールのアンケート調査では「本園の環境整備」について 99%がよく整っていると評価している。研修会などで参観した教育関係者によるアンケート集計結果では「3. 園の環境衛生や危機管理体制について」95.5%、「6. 安全・維持管理のため環境整備について」は 93.9%と高い評価を得ていることから、客観的な観点からも優れた取り組みであると判断される。

ただし、改善を要する点にも記載（p.4）したとおり、現在の園舎は昭和 44 年に建築されたもので、接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび割れ、配管などの老朽化が目立つ。特に、幼稚園西側フェンスは外部から容易に侵入されてしまう危険性がある。幼児の安全を守るためにも、早急の改善が設置者側に求められる。

## 評価項目 6 教育実習

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4 段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

（評価結果の根拠・理由）

### 観点 6 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

ふれあい実習、観察実習、ボランティアでの保育参加によって実習生が教育実習をスムーズにスタートできている点、実習生の希望も考慮して学級を配属している点、指導案作成を手書きからパソコンの使用も認めるなど効果的な時間の使い方ができるよう改善している点、「附属学校園実習実地教育計画表」に基づき配属された年限での指導が深まるように配慮し、領域研究の中に各学級での教材研究の実践が図れるようにしている点、幼児の生活ぶりを記録したり保育を振り返るミーティングをしたり、「自己評価観点表」によって自分の課題が明確にするなどカリキュラム・マネジメント力を促す実習の工夫がなされている点、実地教育専門部会において大学と附属校園との連携を図っている点など、実習生の専門性や実践力を養うために様々な教育的な配慮や優れた取り組みがなされていると判断される。

## 参考

### I 学校の現況及び目的

#### 1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町 2 丁目 11 番地の 1
- (3) 学級等の構成  
3 歳児 1 学級, 4 歳児 2 学級, 5 歳児 2 学級  
保育課程 2 年保育, 3 年保育
- (4) 幼児数及び教員数(平成 28 年 5 月 1 日)  
幼児数 128 人 教員数 10 人 (正規教員)

#### 2 目的

##### (1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第 1 条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第 2 項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第 1 条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ① 大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究幼稚園としての使命
- ② 地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③ 鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

##### (2) 教育目標

本園は、園則第 1 条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ① 自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ② 健康でたくましい心身を養うこと。
- ③ それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。
- ④ 身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。
- ⑤ 喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。
- ⑥ 創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

### (3)めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

### (4)平成 28 年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、次の 3 点から教育目標の具現化を図る。

- ① 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。
- ② 「遊誘財」研究を生かし、実践の質的向上を図る。
- ③ 幼児教育における先導的役割を果たす。

### (5)評価項目

- ① 教育課程・指導
  - ・ 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
  - ・ 科学的思考を促す幼小接続の生活プラン（教育課程・指導計画）作成に関する取り組み状況
- ② 保健安全管理
  - ・ 保健計画の作成・実施の状況，園の環境衛生の管理状況
  - ・ 危機管理対策の見直しと強化
- ③ 組織運営
  - ・ 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど，園の明確な運営・責任体制の整備の状況
- ④ 研究と研修
  - ・ 幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況
  - ・ 幼児教育関係者への研修支援等の状況
  - ・ 地域住民への貢献
- ⑤ 教育環境整備
  - ・ 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況
- ⑥ 教育実習
  - ・ 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況